

令和 8 年度

釧路教育研究センター運営審議会

日時：令和 8 年 7 月 1 5 日（水） 1 6 : 0 0

会場：釧路市教育委員会 教育委員会室

〈 次 第 〉

- 1 開 会
- 2 教育長挨拶
- 3 令和 7 年度事業報告
- 4 令和 8 年度事業計画
- 5 その他
- 6 閉会

目 次

令和８年度 釧路教育研究センター運営審議会委員名簿	．．．．．	1
令和７年度 事業報告	．．．．．	2
・研究紀要等の発行	．．．．．	3
・研修講座参加状況	．．．．．	4
・研修講座別参加人数	．．．．．	5
令和８年度 事業計画	．．．．．	6
1 運営方針	．．．．．	7
2 教育研究センター執行体制		
(1)機構図	．．．．．	8
(2)業務分担	．．．．．	8
3 運営の重点並びに事業の概要		
(1)調査・研究	．．．．．	9
(2)研究グループリーダー及び研究グループ委員	．．．．．	10
(3)研修講座	．．．．．	11
(4)その他	．．．．．	11
令和８年度 研修講座事業推進計画	．．．．．	12
資料 研究センター新聞記事	．．．．．	16

令和8年度

釧路教育研究センター運営審議会委員名簿

氏名	構成	選出母体	役職
佐々木 豊	学識経験者	北海道教育大学教職大学院	特任教授
寺田 裕子	学識経験者	北海道教育大学釧路校	教授
穂積 貴美子	社会教育経験者	釧路市女性団体連絡協議会	副会長
前田 由紀	社会教育関係者	釧路市 PTA 連合会	副会長
齊藤 崇	学校教育関係者	釧路市小中学校校長会	鶴野小学校 校長
佐藤 宏	学校教育関係者	全釧路教職員組合釧路市支部	景雲中学校 教諭
高柳 雅史	学校教育関係者	北海道教職員組合釧路支部	北中学校 教諭

令和7年度 事業報告



令和7年7月17日（木）
「学校における読書環境の充実」



令和7年7月23日（水）
「環境教育の充実
～SDGs の考え方から釧路湿原での
希少生物保護と開発を考える～」



令和7年7月10日（木）
「子どもの権利について学ぼう
～いじめへの対応～」



令和7年11月20日（木）
「ふるさとキャリアを核とした
総合的な学習の時間の充実」

《研究紀要等の発行》

	発 行 物	部 数	配 布 先
1	・「算数・数学科授業づくり リーフレットNo. 3」 (学習指導・開発研究グループ)	1 0 0 0 H P 掲 載	小・中学校 義務教育学校 教育関係機関 等
2	・「国語科授業づくり リーフレットNo. 1」 (学習指導・開発研究グループ)	1 0 0 0 H P 掲 載	小・中学校 義務教育学校 教育関係機関 等
3	・所報「釧路教育」 No. 3 2 0 No. 3 2 1 No. 3 2 2	3 0 0 3 0 0 3 0 0 H P 掲 載	小・中学校 義務教育学校 教育関係機関 等
4	・「子供の発達を支える生徒指導の アップデート」リーフレット (子ども支援研究グループ)	1 0 0 0 H P 掲 載	小・中学校 義務教育学校

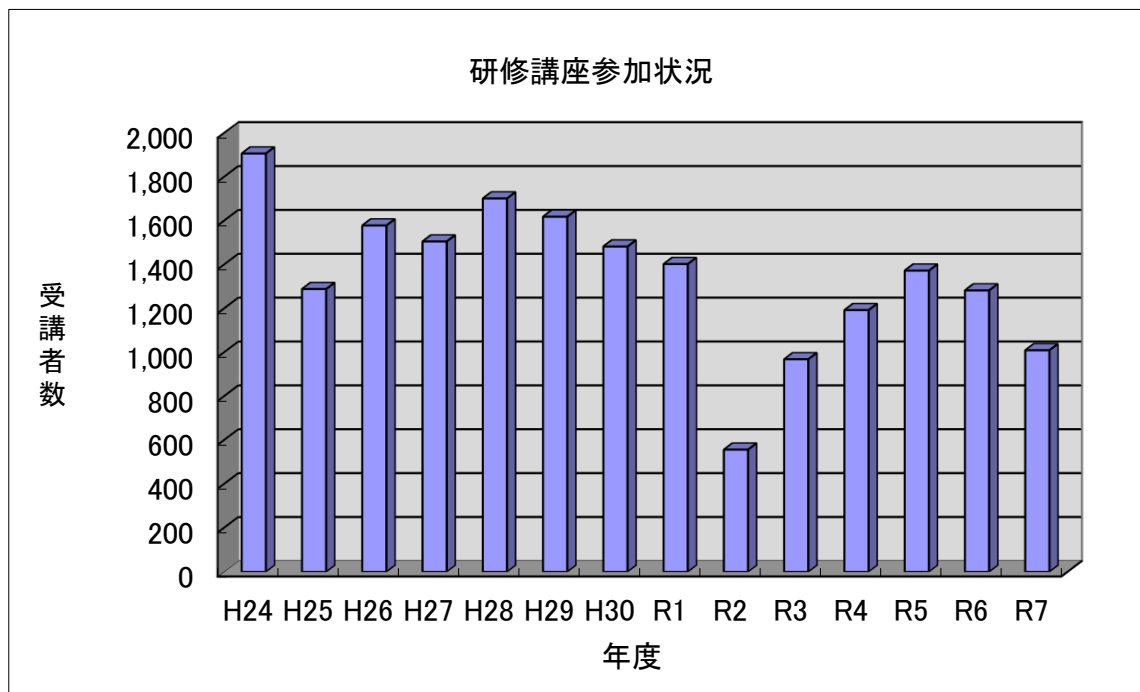
《 研 修 講 座 参 加 状 況 》

令和7年度は、17講座を開講した。(令和6年度に開講した研修講座数は17講座)

※()は令和6年度受講者数。

	市内小中教職員	管内小中教職員	幼・高・一般等	合 計
受講者数	929(1211)	50 (29)	31(43)	1010(1283)

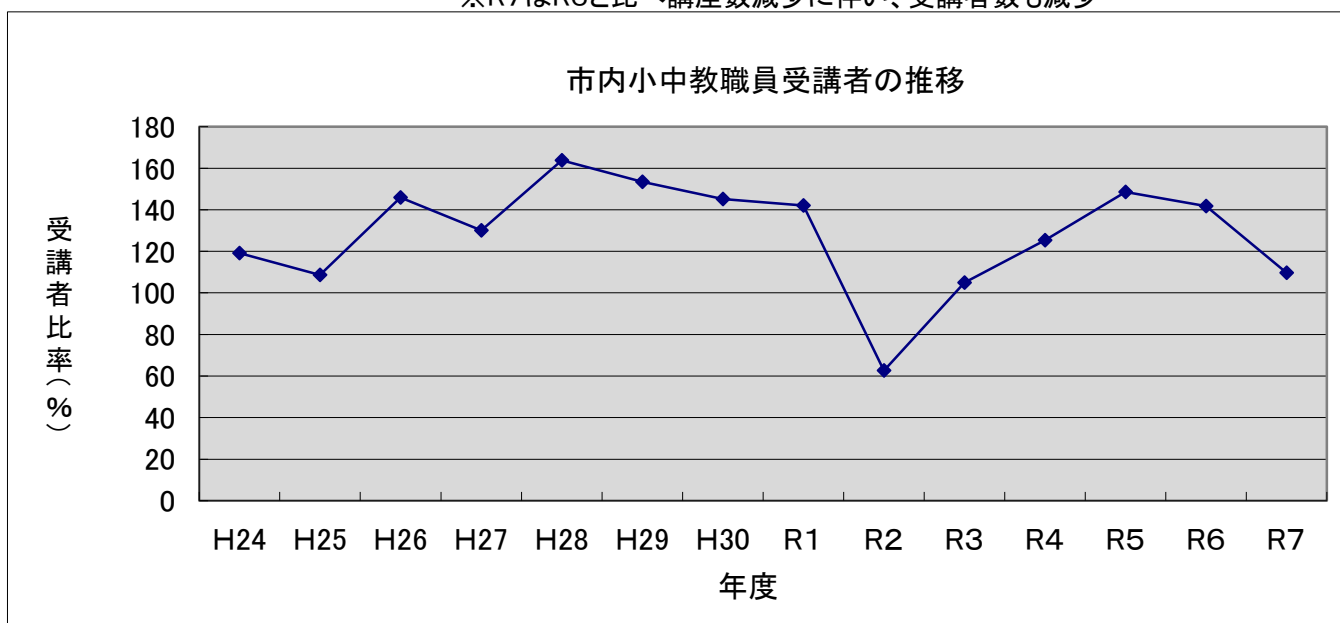
年度	受講者
H24	1,907
H25	1,289
H26	1,579
H27	1,506
H28	1,702
H29	1,619
H30	1,483
R1	1,403
R2	557
R3	969
R4	1,193
R5	1,373
R6	1,283
R7	1,010



《市立小中教職員参加状況》 釧路市立小中学校教職員に対する受講者数の比率(%)

	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
受講者数	1,068	935	1,266	1,123	1,424	1,385	1,305	1,265	528	860	1,063	1,256	1,180	915
比率(%)	119.2	108.6	145.9	130.1	163.8	153.4	145.2	142.1	62.6	105	125.4	148.6	141.7	109.7

※R2は新型コロナウイルス感染症の影響により14講座のみ開講
 ※R7はR6と比べ講座数減少に伴い、受講者数も減少



釧路教育研究センター研修講座 参加人数（令和7年度実績）

番号	講 座 名	期 日	会 場	対 象	参加人数
1	9年間の学びの連続性に向けた国語科教育の充実	10月6日（月）	釧路市立美原小学校 釧路市立美原中学校	小・中・義・高	92
2	9年間の学びの連続性に向けた算数・数学科教育の充実	12月18日（木）	釧路市立鳥取西小学校 釧路市立鳥取西中学校	小・中・義・高	71
3	9年間の学びの連続性に向けた外国語教育の充実	10月22日（水）	釧路市立朝陽小学校 釧路市立桜が丘中学校	小・中・義・高	64
4	ふるさとキャリアを核とした総合的な学習の時間の充実	11月20日（木）	釧路市立幣舞中学校	小・中・義・高	55
5	文部科学省視学官と学ぶ算数・数学科授業の在り方	7月18日（金）	釧路市立北中学校	小・中・義・高	64
6	不登校の児童生徒への対応～不登校理解と一人一人の学びを支える学校づくり～	7月3日（木）	釧路市生涯学習センター まなぼつと幣舞	小・中・義	83
7	校内研修の充実Ⅰ	6月9日（月）	釧路市交流プラザさいわい	小・中・義 （研修担当教員対象）	40
8	校内研修の充実Ⅱ	12月17日（水）	釧路市生涯学習センター まなぼつと幣舞	小・中・義 （研修担当教員対象）	40
9	幼保小連携と協働～子供の学びのなだらかな接続を目指して～	10月27日（月）	釧路市立昭和小学校	幼・保・認・小・中・義・高	69
10	子どもの権利について学ぼう～いじめへの対応～	7月10日（木）	釧路市生涯学習センター まなぼつと幣舞	小・中・義	69
11	釧路市の教育～採用1年目研修会～	8月1日（金）	釧路市生涯学習センター まなぼつと幣舞	小・中・義 （採用1年目教員）	30
12	特別支援教育の充実～通級指導における課題解決と指導力の向上～	8月28日（木）	釧路市生涯学習センター まなぼつと幣舞	小・中・義	59
13	環境教育の充実～SDGsの考え方から釧路湿原での希少生物保護と開発を考える～	7月23日（水）	釧路湿原野生生物保護センター	幼・保・認・小・中・義・高	31
14	1人1台端末を活用した情報活用能力を育成する学習指導の充実	10月16日（木）	釧路市立興津小学校	小・中・義・高	66
15	実技研修「書写指導」の充実	10月24日（金）	釧路市生涯学習センター まなぼつと幣舞	幼・保・認・小・中・義・高	33
16	学校における読書環境の充実	7月17日（木）	釧路市中央図書館	小・中・義	45
17	公開研に行こう～大楽毛小・中学校公開研究会～	10月30日（木）	釧路市立大楽毛中学校	小・中・義・高	99

【釧路教育研究センター 教育講演会】

講 師 ・ 演 題 等	期 日	会 場	対 象	参加人数
講師： 長 田 徹 氏 （文部科学省 初等中等教育局 教育課程課 教科調査官） 演題： 「ふるさとキャリア教育の推進 ～地域と未来を拓く人づくり～」	2月14日（土）	コーチャンフォー 釧路文化ホール	幼・保・認・小・中・ 義・高・一般	152

釧路教育研究センター

令和8年度

事業計画



令和7年 6月 9日(月)
「校内研修の充実Ⅰ」



令和7年10月24日(金)
「実技研修「書写指導」の充実」



令和7年12月18日(木)
「9年間の学びの連続性に向けた
算数・数学科教育の充実」



令和7年10月27日(月)
「幼保小連携と協働～子供の学びの
なだらかな接続を目指して～」

1 運営方針

釧路市及び北海道における教育目標と教育推進の重点の具現のため、今日の教育的な教育課題について実践的な調査・研究を実施し、その研究成果を発行物や研修講座の実施を通して市内各校に広く発信していく。

また、子供たちの生きる力を育むため、教育行政方針や釧路市学校改善プランを推進する総合的な研修機関として、1人1台端末を最大限に活用した個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図る授業改善を牽引する。

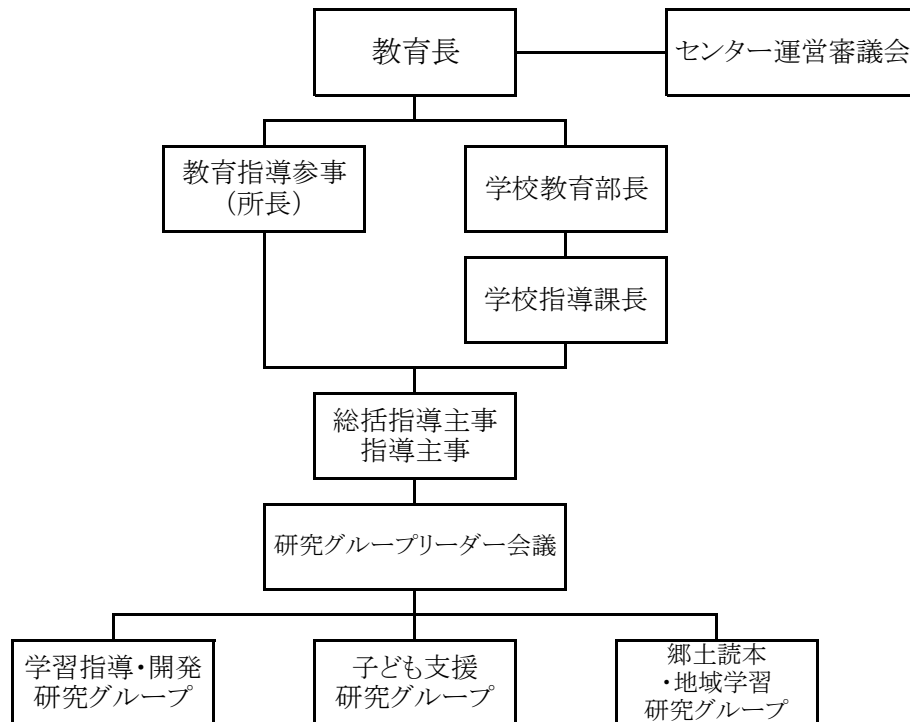
《事業推進の基本的事項》

釧路市教育委員会の教育行政方針や学校教育推進の指針に基づいて、本市における教育の振興・発展を図るための調査研究や研修事業を推進する。

- (1) 学校教育における今日の課題に対応するため、専門的で、学校現場で生きる調査研究を通して教育活動を推進するとともに、研修講座を通して、教職員の資質向上及び教育実践の深化・高揚を図る。
- (2) ICT、生成AIの効果的活用を図り、研究センターとしての機能を生かして、教職員の実践的教育研究の奨励・普及に努める。

2 教育研究センター執行体制

(1) 機構図



(2) 業務分担

職 名	氏 名	担 当 事 務	備 考
教育指導参事	本 川 敬 一	総括・渉外	所長
総括指導主事	畠 山 和 彦	総括補佐	
指導主事	宮 原 美 里	調査・研究の支援・助言	
	赤 本 純 基		
	佐 藤 義 人		
	寺 嶋 純 哉		子ども支援研究担当
	稲 垣 宏 治		郷土読本・地域学習担当
	久 末 卓 矢	リーダー研修・リーダー会議担当	学習指導・開発研究担当
研究グループ リーダー	主 任 齋 藤 政 人(幣 舞 中)	調査・研究の推進	子ども支援研究担当
	副主任 鶉 橋 大 志(青 葉 小)	各研究グループの運営	郷土読本・地域学習担当
	工 藤 拓 郎(鳥取西中)	研修講座等の協力	学習指導・開発研究担当

3 運営の重点及び事業の概要

(1) 調査・研究

ア 重点事項

- (ア) 教育の今日的課題を的確に把握し、その実践的・先導的な研究を通して課題解決にあたる。
- (イ) 効率的な研究体制を確立し、研修講座との関連においてその成果が実践的に生かされるようにする。

イ 調査研究概要

グループ	研 究 内 容	計 画	担 当	
			リーダ－	委員
学習指導・開発	各種学力調査の分析結果を踏まえた授業公開と研究協議を通して、各教科における指導の在り方について研究し、その成果を発信する。また、ICTの効果的な活用に係る実践事例を発信するとともに、「生成AI利活用ガイドブック」の策定に係る情報収集を行う。	1 か年 計画	1 名	6 名 小-4 中-2
子ども支援	釧路市内各校における子ども支援に関する課題を踏まえ、発達支持的な生徒指導を踏まえた教育相談やカウンセリングの方法など、学級経営の基盤となる実践を蓄積し、発信する。	1 か年 計画	1 名	4 名 小-2 中-2
郷土読本・地域学習	子供たちの自己実現を図り、地域社会に貢献する意識を育むために、ふるさとキャリア教育を核とした「総合的な学習の時間」における探究的な学びの在り方について研究する。また、関係機関と連携しながら、郷土読本「くしろ」の内容について検討を行う。	1 か年 計画	1 名	4 名 小-2 中-2

(2) 研究グループリーダー及び研究グループ委員

ア 研究グループリーダー

- ① 釧路市の様々な教育課題の解決と教員の指導力向上を図るため、実践的な調査・研究を実施するとともに、各研究グループの研究を推進し、市内各校へ発信する。

【業務内容】・各研究グループの運営、研究推進 ・研修講座の運営、協力
・所報、成果物の発行及び、教育情報の提供等
・毎週金曜日と研究グループ委員会が開催される火曜日に勤務し、時間は 17:30～19:00 とする。

- ② 必要に応じて、教員の指導力向上に向けた協議に参加し、その内容について各研究グループの活動に還元する。

職 名	氏 名	担 当	所 属 校
主任	齋 藤 政 人	子ども支援研究グループ	幣 舞 中学校
副主任	鶉 橋 大 志	郷土読本・地域学習研究グループ	青 葉 小学校
	工 藤 拓 郎	学習指導・開発研究グループ	鳥取西 中学校

イ 研究グループ委員

釧路市の様々な教育課題の解決と教員の指導力向上を図るため、所属校での実践を生かしながら研究グループリーダーとともに研究グループの実践的研究を行う。

【業務内容】・研究グループの研究推進、成果物の発行・提供
・毎月2回勤務

■学習指導・開発研究グループ（6名）

氏 名	所 属 校
本 川 莉 帆	愛 国 小学校
工 藤 智 也	鳥取西 小学校
関 口 愛	興 津 小学校

氏 名	所 属 校
早 川 将 光	共 栄 中学校
関 川 優 司	景 雲 中学校
工 藤 夏 希	大楽毛 学 園

■子ども支援研究グループ（4名）

氏 名	所 属 校
高 瀬 慎 史	鳥 取 小学校
鈴 木 貴 子	鶴 野 小学校

氏 名	所 属 校
片 桐 一 成	北 中学校
谷 口 友 彰	鳥取西 中学校

■郷土読本・地域学習研究グループ（4名）

氏 名	所 属 校
江 渡 明 香	清 明 小学校
大 城 卓 也	美 原 小学校

氏 名	所 属 校
小 林 太	青 陵 中学校
高 木 優 人	桜が丘 中学校

(3) 研修講座

ア 重点目標

- ① 学校教育における今日的な課題や各学校が求める課題解決につながる教育内容や方法等について具体的に検討し、実践的指導力を高める講座を設定する。
- ② キャリアステージに応じた教員の主体的な研修ができるよう、授業改善や教科指導、教育相談等の講座を開催するとともに、教職員の積極的な参加を促し、資質向上を図る。
- ③ 1人1台端末の各教科等における個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図るための効果的な活用方法について、実践的な研修を行う。
- ④ 校内研修の充実を目的としたサポート体制を充実し、各校の研究課題解決に向けた研修活動への援助・協力を行う。

イ 講座一覧（7～9ページ参照）

(4) その他

・ 関係機関との連携

関係機関・団体との連携を密にし、研修の充実と活性化に努める。

令和 8 年度 研修講座事業推進計画

1 運営の重点

- (1) 釧路市の教育課題に応えるよう研修事業の推進を図り、研修の効果を高めるために研修講座の充実と円滑な運営に努める。
- (2) 教職員の研修意欲を高めるよう研修事業の紹介・啓発に努める。

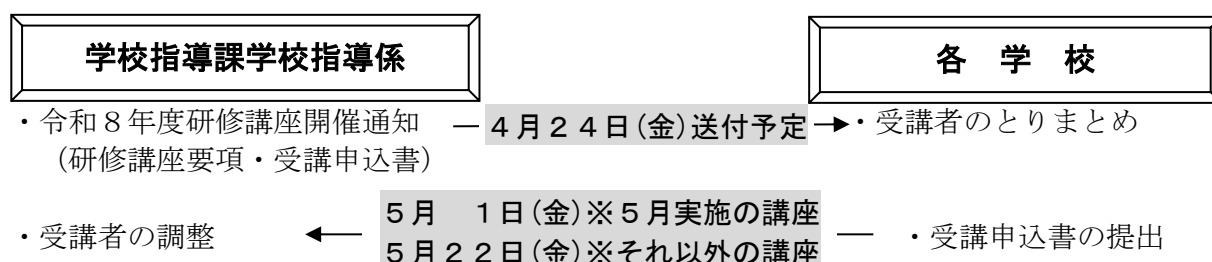
2 研修講座について

- (1) 研修講座の受講については、希望参加を原則とします。
- (2) 研修講座の要項については、講座の目的や内容等を確定している範囲で記述しています。
- (3) 研修講座の種類や内容については「第Ⅲ期 釧路市教育推進基本計画」「令和 8 年度教育行政方針」の施策等や、アンケートの要望事項を考慮して設定しています。
- (4) 研修方法は、講義、授業公開のほか、協議、実習・実験、視察・体験・オンラインなどの形態も取り入れ、研修効率を高めるよう配慮しています。

3 受講申し込み手続き

研修講座要項も含めて市内・管内に全てメールでの配信を実施しています。

- (1) 下記の要領で受講申し込みをしてください。**重点・参加者指定講座につきましては、釧路市内の学校 1 名以上の参加**を期待していますので、よろしくお願いいたします。
また、**釧路市内の学校には、1 人 1 回以上の講座への参加**をお願いいたします。
なお、「第Ⅲ期 釧路市教育推進基本計画」や「令和 8 年度教育行政方針」の施策等にかかわる(重点・参加者指定)講座につきましては、参加対象を釧路市内の学校に限定している講座があることをご了承ください。



※各講座実施の 1 週間前を目途に、実施案内、要項及び参加者名簿を申込みのない学校も含めて(申し込み漏れを防ぐため)全校にメールで配信しますので、ご確認ください。

- (2) 予定人数に満たない講座が出た場合は、再度、募集を依頼し受講申し込みを受け付けますのでよろしくお願いいたします。
- (3) 受講申し込み後、やむを得ない事情により受講不可能となった場合は、講座開催の 1 週間前までに、学校指導課学校指導係宛お知らせください。
- (4) 追加申し込みについては、随時受け付けておりますので電話・メール等でご連絡ください。
(TEL 23-5189 FAX 25-5999 E-mail: gs-shido@city.kushiro.lg.jp)
- (5) 受講に当たり、配慮が必要なことがありましたら、受講申込書の「配慮事項」欄に記入してください。

4 その他

- (1) 各学校、研究団体等の行事や講師の都合などで日程を変更する場合があります。その場合は早期に各学校に連絡いたします。
- (2) 研修講座会場は各学校をはじめ、様々な場所を会場としています。会場等の変更があった場合は、事前に連絡いたします。
- (3) 特別講座については定員を 60 名としており、定員を超えた場合は釧路市内の教員の参加を優先させていただきます。

NO. 1

◎印：特別重点講座です。市内各学校は1名以上の参加をお願いします。
●印：参加者指定講座です。市内各学校は指定された参加者1名以上の参加をお願いします。
○印：小学校重点講座です。市内小学校、義務教育学校は1名以上の参加をお願いします。
☆印：中学校重点講座です。市内中学校、義務教育学校は1名以上の参加をお願いします。

1	◎	講座名	国語科教育の充実			授業	研修目的	全国学力・学習状況調査、釧路市標準学力検査の分析結果を基にした国語科の授業公開と研究協議を通して、国語科の授業の在り方について研修を深める。	
		期日	10月20日(火) 午後	対象	小・中・義・高				○
		協力	学習指導・開発研究グループ						
		会場	釧路市立大楽毛学園						
2	○	講座名	算数科教育の充実			授業	研修目的	小学校における、算数科の授業公開、研究協議を通して、算数科における指導の在り方について理解を深める。	
		期日	7月17日(金) 午後	対象	小・中・義・高				○
		協力	学習指導・開発研究グループ						
		会場	釧路市立愛国小学校						
3	☆	講座名	国研学力調査官「示範授業」に学ぶ全国学調を踏まえた数学科授業の在り方			授業	研修目的	国立教育政策研究所学力調査官を示範授業者及び講師として、中学校における、全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた数学科の授業公開、研究協議を通して、指導の在り方について理解を深める。	
		期日	11月27日(金) 午前～	対象	小・中・義・高				○
		協力	学習指導・開発研究グループ						
		会場	釧路市立鳥取西中学校						
4	◎	講座名	外国語教育の充実			授業	研修目的	外国語専科教諭による授業公開、研究協議を通して、外国語科における指導の在り方、ALTの効果的な活用方法について研修を深める。	
		期日	調整中	対象	小・中・義・高				○
		会場	調整中						
5		講座名	体育科教育の充実			授業	研修目的	小中連携の視点を取り入れた小・中学校体育科の授業公開と研究協議を通して、小中連携における体育科の授業の在り方について研修を深める。	
		期日	調整中	対象	小・中・義・高				○
		会場	調整中						
6		講座名	文部科学省視学官と学ぶ算数・数学科教育の在り方			授業	研修目的	文部科学省視学官を講師として、小・中学校における算数・数学科の授業公開、研究協議、講演を通して、算数・数学科における学習指導の在り方について理解を深める。（どちらか1日のみの参加も可能）	
		期日	10月22日(木)午前～ 10月23日(金)午前～	対象	小・中・義・高				○
		会場	釧路市立阿寒湖義務教育学校						
7	◎	講座名	総合的な学習の時間の充実			授業	研修目的	探究のプロセスに対する理解を深め、各校の実態調査から抽出された具体的な課題場面をもとにした演習等を通して、探究的な学びの充実に向けた実践的な指導力を養う。	
		期日	5月28日(木) 午後	対象	小・中・義・高				—
		会場	生涯学習センター「まなぼっと幣舞」						
8	●	講座名	校内研修の充実Ⅰ			授業	研修目的	児童生徒の実態に即した、授業改善を軸とした校内研修体制の確立を踏まえ、今年度の各校の校内研修の在り方について協議するとともに、釧路市全体の校内研修の充実を図る。	
		期日	5月15日(金) 午後	対象	小・中・義				—
		会場	生涯学習センター「まなぼっと幣舞」						
9	●	講座名	校内研修の充実Ⅱ			授業	研修目的	「校内研修の充実Ⅰ」で協議した校内研修の在り方について振り返り、校内研修の実際について協議することを通して、釧路市全体の校内研修の充実を図る。	
		期日	12月18日(金) 午後	対象	小・中・義				—
		会場	生涯学習センター「まなぼっと幣舞」						

令和8年度 釧路教育研究センター 研修講座一覧

NO. 2

◎印：特別重点講座です。市内各学校は1名以上の参加をお願いします。
●印：参加者指定講座です。市内各学校は指定された参加者1名以上の参加をお願いします。
○印：小学校重点講座です。市内小学校、義務教育学校は1名以上の参加をお願いします。
☆印：中学校重点講座です。市内中学校、義務教育学校は1名以上の参加をお願いします。

10		講座名	幼保小連携と協働			授業 研修 目的	幼稚園または保育園の保育の様子を参観することを通して、幼児期における特別支援教育の在り方や小学校との連携について理解を深める。
		期日	調整中	対象	幼保認・小・中・義		
		会場	調整中				
11	☆	講座名	「じぶんメンテ」で拓く、これからの重層的支援 ～モデル校の実践に学ぶ、ストレスマネジメント事業の全校展開に向けて～			授業 研修 目的	本市の中学生が置かれている現状と不登校・いじめ等の課題を共有し、ストレスマネジメントを「共通言語」とした重層的支援の理念を理解するとともに、モデル校（北中学校）における先行実践をもとに自校での具体的な指導・支援のイメージを構築し、令和9年度からの全校展開に向けた実践力を養う。
		期日	1月21日(木) 午後	対象	小・中・義		
		会場	生涯学習センター「まなぼつと幣舞」				
12	採用 1年 目	講座名	釧路市の教育 ～採用1年目研修会～			授業 研修 目的	釧路市の学校教育における現状に係る説明と演習を通して、釧路市の課題や今後の教育活動の在り方について理解を深める。
		期日	7月29日(水) 午後	対象	(市内)小・中・義		
		会場	生涯学習センター「まなぼつと幣舞」				
13		講座名	特別支援教育の充実			授業 研修 目的	各校の現状や課題解決に向けた方策の交流や個別の指導計画の「指導と評価の一体化」についての講話・情報提供等を通して、学校全体で取り組む特別支援教育について研修を深める。
		期日	9月28日(月) 午後	対象	小・中・義		
		会場	交流プラザさいわい 大ホール				
14		講座名	環境教育の充実			授業 研修 目的	環境教育の取組を知るとともに、環境保全と私たちの生活との関係について見つめ、教員としての資質向上を図る。
		期日	7月2日(木) 午後	対象	幼保認・小・中・義・高		
		会場	調整中				
15		講座名	1人1台端末を活用した情報活用能力を 育成する学習指導の充実			授業 研修 目的 ○	生成AI、ICTを効果的に活用して子供たちの思考を深める具体的な授業像を確立するとともに、子供たちが主体的にデジタル技術を使いこなし、正しい情報を見極める力を養う指導法を学ぶ。
		期日	調整中	対象	小・中・義		
		会場	調整中				
16		講座名	実技研修「音楽指導」の充実			授業 研修 目的	音楽の基礎的な能力を育成する指導力向上を目指し、授業において活用できる指導法等について学ぶ。
		期日	調整中	対象	小・中・義		
		会場	調整中				
17	◎	講座名	公開研に行こう ～桜が丘中学校区公開研究会～			授業 研修 目的 ○	「釧路市が目指す授業を基にした授業改善」をテーマに、中学校区における授業公開や研究協議を通して理解を深める。
		期日	11月20日(金)	対象	幼保認・小・中・義・高		
		会場	釧路市立桜が丘中学校				

令和8年度 釧路教育研究センター 研修講座一覧

NO. 3	◎印：特別重点講座です。市内各学校は1名以上の参加をお願いします。 ●印：参加者指定講座です。市内各学校は指定された参加者1名以上の参加をお願いします。 ○印：小学校重点講座です。市内小学校、義務教育学校は1名以上の参加をお願いします。 ☆印：中学校重点講座です。市内中学校、義務教育学校は1名以上の参加をお願いします。
-------	--

特別	講座名	解決志向で描く、発達支持的生徒指導 ～教育相談スキル活用強化に向けた伴走型専門研修～			授業	研修目的 生徒指導をめぐる現状を理解し、解決志向の視点で認識の枠組みを更新するとともに、生徒の個性を伸ばし困難を乗り越える力を育む「発達支持的生徒指導」の実践力を養う。
	期日	①5月20日(水) ②6月1日(月) ③7月9日(木) ④8月26日(水) ⑤10月16日(金) ⑥11月24日(火) ⑦12月22日(火) ⑧1月15日(金) ⑨2月17日(水) ※全て午後～	対象	小・中・義	—	
	会場	生涯学習センター「まなぼつと幣舞」			—	
特別	講座名	特別支援教育コーディネーター研修 全体研修			授業	研修目的 特別支援教育コーディネーターとして、学校内外の関係機関と連携し、効果的な支援体制を構築・運営するための専門性を習得し、全ての児童生徒が適切な支援を受けられるインクルーシブ教育システムを構築する資質・能力を養う。
	期日	5月8日(金) 午後	対象	(市内)小・中・義	—	
	会場	生涯学習センター「まなぼつと幣舞」			—	
特別	講座名	特別支援教育コーディネーター研修 認定研修 ベーシックコース			授業	研修目的 特別支援教育コーディネーターとして、学校内外の関係機関と連携し、効果的な支援体制を構築・運営するための専門性を習得し、全ての児童生徒が適切な支援を受けられるインクルーシブ教育システムを構築する資質・能力を養う。
	期日	7月14日(火) 午前～	対象	(市内)小・中・義	—	
	会場	生涯学習センター「まなぼつと幣舞」			—	
特別	講座名	特別支援教育コーディネーター研修 認定研修 アドバンスコース			授業	研修目的 特別支援教育コーディネーターとして、学校内外の関係機関と連携し、効果的な支援体制を構築・運営するための専門性を習得し、全ての児童生徒が適切な支援を受けられるインクルーシブ教育システムを構築する資質・能力を養う。
	期日	8月28日(金) 午前～	対象	(市内)小・中・義	—	
	会場	生涯学習センター「まなぼつと幣舞」			—	
特別	講座名	特別支援教育コーディネーター研修 継続研修①～③			授業	研修目的 認定研修で培った基礎的な知識・技能を発展させ、個別の事例検討を通じた実践力の深化、コーディネーターがリーダーシップを発揮する学校全体への特別支援教育に関する実践力・視点の波及、および関係機関との連携協力体制の強化を図り、地域全体で全ての子どもを支えるインクルーシブ教育システムの実現に貢献する。
	期日	調整中	対象	(市内)小・中・義	—	
	会場	生涯学習センター「まなぼつと幣舞」			—	

令和8年度 釧路教育研究センター 教育講演会				
	対 象	講師・講演内容	会 場	
令和8年10月10日(土)	午後	幼稚園・保育園 認定こども園 小学校・中学校 高校・一般 クリプトン・フューチャー・メディア株式会社 代表取締役 伊 藤 博 之 氏	コーチャンフォー 釧路文化ホール 大ホール	

資料

【北海道通信 令和7年6月17日】

釧路市教委 校内研修充実へ講座

研究内容の日常化へ

グループ協議通して研鑽



内研修推進事例やグループ協議「写真」などを通して、研究内容の日常化につながる校内研修の取組について研鑽を深めた。

児童生徒の実態に即した、授業改善を軸とした校内研修体制の確立を踏まえ、各校の校内研修の在り方について協議することにも、市全体の校内研修の充実を図ることがねらい。

【釧路発】釧路市教委は9日、市交流プラザで研修講座「校内研修の充実」を開いた。市内の全小・中学校、義務教育学校から研修担当教諭40人が参加。校内研修推進における課題解

決を見いだしていく「自発的研修講座」として実施している。各校の研修推進に携わる

教諭が中心になり、自校の課題を見いだすことで、全教職員が解決に向け主体的に研修を進めていくことができるよう取り組んでいる。

はじめに校種別グループ協議を実施。8グループに分かれ、「校内研修推進で困っていること」に関する事前アンケート結果について「研究の積み上げをどう図るか」「個人課題解決に向けた授業改善に対する意識の向上」「数値では見取れない子どもの変容」などを視点に協議を進めた。

引き続き行われたテーマ別グループ協議では①研修時間の確保②個人課題の工夫③モチベーションの向上④研修内容の工夫⑤事後検討の工夫⑥小中連携の在り方の六つのテーマに分かれ、校内研修推進に向けた意見交流を行った。

参加した鳥取小学校の高瀬慎史教諭は「課題解決型研修を進める上でのポイントが確認できた。今後は全教職員の進捗具合をスプレッドシートで確認できるようにしたい」と話し、さらなる研修推進の充実に向けて意欲を見せた。

担当した佐藤義人指導主事は「自校の課題解決に向け、他校の実践を積極的に学ぼうとする姿勢が見えた。活発な意見交換や熱心な議論を繰り広げる姿は、まさに協働的に学び合う教師であった」と今後の研修成果に期待を寄せた。

【北海道通信 令和7年7月14日】



釧路市教委 不登校対応研修講座

チーム学校で支援を

プラン作成等で課題明確化

【釧路発】釧路市教委は3日、市生涯学習センターで研修講座「不登校の児童生徒への対応」を開催した。同講座は、支援プランの作成やグループ協議などを通して課題の明確化を図り、不登校支援や外部機関との関係などを理解

講座は特別重点講座になっており、市内全小・中学校、義務教育学校のほか、管内の中学校、義務教育学校から89人が参加。受講者は、支援プランの作成

すること、不登校児童生徒への対応について研鑽を積んだ。

不登校の現状理解、予防・段階的支援の在り方や、学びの多様化学校を含めた外部連携について理解

するとともに、段階に応じた支援策の考え方や方法についての理解を深めること

をはじめに演習Ⅰを実施。演習を最初に行う「演習先

行型」のアプローチは、課題の明確化や主体的な学び・多様な視点の獲得などに結び付き、より実践とながりをやすくなる。

参加者は、自校の不登校児童生徒の支援プランシートを作成。シートをもとに状態が近い学校同士でグループになり、支援や連携などについて協議を深めた。課題の明確化を図った。

協議によって明確化された課題を意識した。その上で道教育大学教職大学院の柴田題寛准教授が「不登校の児童生徒への対応」と題して講義した。写真Ⅱ。

不登校支援における重層的支援構造について説明。これらの支援構造を踏まえた上で、チーム学校で支援することに触れた。チーム

学校の実現に向けた課題として、他機関の人材や業務内容の把握が弱い点を挙げ、適切な機関からの援助サービスを受けにくくしている可能性を指摘。機関相互が互いに補完できるように「連携」の在り方の重要性を説いた。

校内体制の充実として、情報伝達の経路やケース会議などの実践例を紹介する中で、これらの取組がより実効性のあるものになるよう求めた。

情報が共有される組織の重要性については、いじめの重大事態など、早期発

見・早期対応への課題や個々の教員が一人で抱え込んでしまふなどの組織的な対応への課題を指摘。具体例を示しながら、情報共有組織の重要性を訴えた。

不登校児童生徒の見取りと対応について、どの時点でアプローチを始めるのが適切かを参加者に問いかけたあと、事例をもとにその理由を説明。組織的支援は、保護者の安心感を大きくするとともに、担任への情緒的援助・実質的援助に

もつながり、それらは児童生徒へのプラス効果になるとし、不登校児童生徒への対応には組織としての支援が欠かせないことをあらためて強調した。

このあと、市教委からの情報提供として、市教育支援センターの様子やスクールソーシャルワーカーなども家庭支援センターなどの業務内容について各担当者が説明。参加者は役割などについて把握したあと演習Ⅱを実施し、最初に作成した支援プランの見直しなどを行い、課題解決に向けて熱心に意見交換などを行った。

【北海道通信 令和7年7月31日】

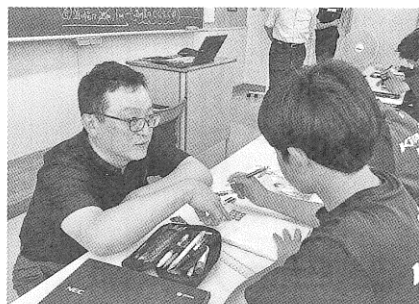
釧路市教委 算数・数学特別講座

教師が学習環境を整えて

文科省・水谷視学官招き

【釧路発】釧路市教委は18日、北中学校で特別講座「文部科学省視学官と学ぶ算数・数学科の授業の在り方」を開催した。算数・数学科における授業改善の在り方についての理解を深めるため、助言者に文科省初等中等教育局の水谷尚人視学官を招き、算数・数学科の授業力向上に向けた幅広い視点からの示唆を受けた。

講座は一昨年度に引き続きとして3回目。2年前から助言を受けている水谷氏を講師に招き、数学科の授業公開や研究協議を通して、算数・数学科の授業の在り方についての理解を深めた。市・管内の小・中学校、義務教育学校から約70人が参加。算数・数学科の授業力向上に向けた授業改善について研鑽を積んだ。



授業公開は北中の中村繁人教諭と市教委の赤本純基指導主事が行った。中村教諭は単元名「二次方程式」を3年1組で、赤本指導主事は単元名「データの分布」を3年2組でそれぞれ公開した。

うち中村教諭は単元名「二次方程式」(13時間扱い)の6時間目を公開し、真上。本時の目標を「具体的な場面の問題から二次方程式をつくり、求めた解が題意に適しているかを判断することができる」と設定した。

縦10m、横11mの土地の図を示し「その中に縦と横に同じ幅の道を作りたいが、道の面積は90平方m。道幅は何m?」という問題から、方程式の活用を確認。「どんな方程式をつくれれば道幅を求められるだろう」という本時の課題を提示した。

「道を寄せて煙をまとめて面積を求めよう。道の面積は90平方m。道の幅を求めよう。」などいろいろな意見を出し合いながら方程式を導き出した。

道に寄せて煙の面積の方程式(11-x)(10-x)と90や道の面積を求めた10x+11x-x²=110-90の方程式をそれぞれ発表。どちらの方程式もx=21x+20=0となり、解が一致(x=1, x=20)することを確認したあと、二つの解が題意に適しているかに着目。問題に適する解は0<x<10の範囲になることを導き出すことで、解はx=1であるとした。

まとめを①道を端に寄せて煙の面積を考える②道の面積の合計から考える」として、題意を振り返ること、道幅xは土地の一边より短く、0<x<10の範囲になることを確認。数学の良さに触れるとともに、数学と実社会との関連についての理解を深めた。

自立できる子を育てよう！授業後の研究協議で中村教諭は「効果的な手だてはどこかを常に意識している。楽しくなければ授業

じゃない」と話し、生徒の自由な発想や思考が広がるよう、日々の授業に取り組んでいることを強調した。

文科省の水谷視学官「写真下」は、文科省の「サポーターマガジン・みるみる」について解説した。「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」を図る授業づくりのための基本的な考え方や具体的な取組について「基本編」「実践編」を合わせて15本の記事が掲載されていることを紹介。また「みるみる」には、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向けた授業改善を目指す全国の先生に「子どもをみる、目を豊かにするヒントを提供したい。授業改善に向けたそれぞれの挑戦を応援したい。願います」というメッセージが込められていることを

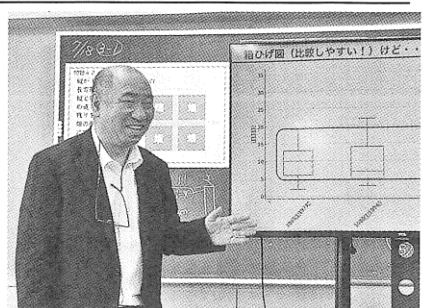
参加者からは「解決の指針のみを示すことで思考の広がりを後押ししている」「xの意味や二つの解に着目させるなど、題意を意識した発問が効果的だった」といった意見などが出された。

現行学習指導要領の考え方に触れ「何ができるようにするか」「何を学ぶか」「どのように学ぶか」を柱に「より良い学校教育を通じてより良い社会を創出」という目標を共有し、社会と連携・協働しながら、未来の創り手となるために必要な資質・能力を育む」というねらいを確認。これらを踏まえ「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善とは、特定の指導方法の「型」を指すのではなく、資質・能力を育むために必要な学びの在り方を常に考え、授業の工夫改善を重ねることと説いた。

最後に「児童生徒が将来必要とする力を見据えよう」と呼びかけ「算数・数学を学ぶってどういうこと?」「数学を使って問題を解決するってどういうこと?」に込められる授業を共に考えていくことで、自立できる子どもたちを育てていこう」と参加者たちにエールを送った。

子ども一人ひとりが自分自身で学習状況を把握し、自らに合った学習の進め方を考えたり、自主的・自発的な学習を行ったりするなか、主体的に学習を調整できるようにすることが大切」とし、教師が学習環境を適切に整えていくことが重要であると強調した。

な学び」「対話的な学び」「深い学び」の各視点について解説したあと「生涯にわたって能動的に学び続けることは、一人ひとりに合った学びを教師が全て提供するという考えだけでは十分はその趣旨を実現することは難しい」と指摘。「子



【北海道通信 令和7年11月5日】

端末活用した情報活用能力育成講座

自己選択の場面設定

釧路市教委 興津小で公開授業

【釧路発】釧路市教委は10月中旬、興津小学校で釧路教育センター研修講座「1人1台端末を活用した情報活用能力を育成する学習指導の充実」を開催した。市内の小・中学校教諭約60人が参加し、公開授業や研究協議を通して教育におけるICT活用の発展に向けて意見交換した。

はじめに、1年生国語科「しらせたいな、いきものひみつ」(関口愛教諭、寛量教諭)の授業を公開。単元内では、動物園の見学や調べ学習など経験したことから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりすること、助詞の使い方や句読点の打ち方を理解して使うこと、観察したり触れ合ったりした生き物について見つけたことを書いて伝える力などの育成を目標としている。

本時は、6時間抜きの3時間目。「よく見たことをメモにかくこと」を課題に、事前学習として行った動物園見学の内容を振り返り「動物の大きさや色、形、動き方など、トリの目や虫の目でじっくり観察して感じたことを、自分の言葉で表してみよう」と呼びかけた。

児童たちは「目の色がオレンジ色だった」「大きさは子猫ぐらいだった」「からだの色は白黒灰色だった」など観察した動物の特徴を具体的にメモに記入。児童一人ひとりが実施しやすい形式で作業に取り組めるよう、ワークシートかロイノートのどちらを使うか自己選択する場面を設けた。

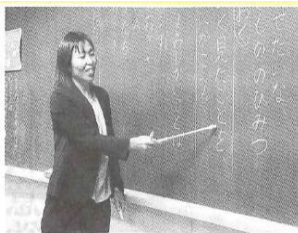
途中、関口教諭が作業に行き詰まった児童に声をかけて、他の児童との交流を促す場面も。作業終了後、グループフォームに提出し交流した。「この伝え方は分かりやすい」「そんな書き方があるんだね」など、自分では思い浮かばなかった表現を他の児童から学び、感じたことを踏まえて新たにメモを作成した。

研究協議では、関口教諭が「1年生から始める情報活用能力の育成」「国語学習と端末活用の実践から」と題して5・9月の実践事例を発表した。個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向けたICTの活用方法を紹介したほか、タブレット端末等の操作に

理にICTに触れさせず、少しずつ慣れさせる教育に努めてほしい」と呼びかけた。

また、新しい学び推進教員として策教諭、美原小学校の鈴木諭加教諭、大塚毛小・高学年それぞれにおけるICTを活用した授業改善の実践についてそれぞれ説明。録音機能による充実したフィードバックや算数科におけるスクリーンキャプチャーを用いた途中式の確認、国語科におけるロイノートを使った文章構造の把握などタブレット端末の活用に関する事例を紹介した。

このあと、グループに分かれて研究協議を実施。関口教諭らの授業について話し合い、感想を交わした。



関口教諭
本時の目標を読み上げる

関口教諭は「動物の大きさや色、形、動き方など、トリの目や虫の目でじっくり観察して感じたことを、自分の言葉で表してみよう」と呼びかけた。

児童たちは「目の色がオレンジ色だった」「大きさは子猫ぐらいだった」「からだの色は白黒灰色だった」など観察した動物の特徴を具体的にメモに記入。児童一人ひとりが実施しやすい形式で作業に取り組めるよう、ワークシートかロイノート

のどちらを使うか自己選択する場面を設けた。途中、関口教諭が作業に行き詰まった児童に声をかけて、他の児童との交流を促す場面も。作業終了後、グループフォームに提出し交流した。「この伝え方は分かりやすい」「そんな書き方があるんだね」など、自分では思い浮かばなかった表現を他の児童から学び、感じたことを踏まえて新たにメモを作成した。

研究協議では、関口教諭が「1年生から始める情報活用能力の育成」「国語学習と端末活用の実践から」と題して5・9月の実践事例を発表した。個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向けたICTの活用方法を紹介したほか、タブレット端末等の操作に

理にICTに触れさせず、少しずつ慣れさせる教育に努めてほしい」と呼びかけた。

また、新しい学び推進教員として策教諭、美原小学校の鈴木諭加教諭、大塚毛小・高学年それぞれにおけるICTを活用した授業改善の実践についてそれぞれ説明。録音機能による充実したフィードバックや算数科におけるスクリーンキャプチャーを用いた途中式の確認、国語科におけるロイノートを使った文章構造の把握などタブレット端末の活用に関する事例を紹介した。

このあと、グループに分かれて研究協議を実施。関口教諭らの授業について話し合い、感想を交わした。

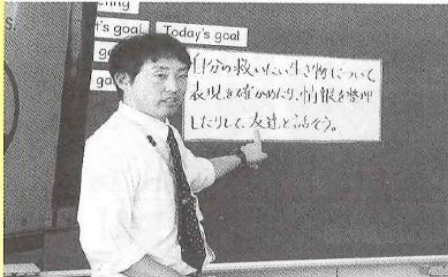
関口教諭は「動物の大きさや色、形、動き方など、トリの目や虫の目でじっくり観察して感じたことを、自分の言葉で表してみよう」と呼びかけた。

児童たちは「目の色がオレンジ色だった」「大きさは子猫ぐらいだった」「からだの色は白黒灰色だった」など観察した動物の特徴を具体的にメモに記入。児童一人ひとりが実施しやすい形式で作業に取り組めるよう、ワークシートかロイノート

【北海道通信 令和7年11月6日】

釧路市教委 外国語教育研修講座 9年間の学び連続性を 朝陽小、桜が丘中で公開授業

【釧路発】 釧路市教委は10月22日、朝陽小学校と桜が丘中学校で釧路教育研究センター研修講座「9年間の学びの連続性に向けた外国語教育の充実」を開催した。市内の小・中学校教諭約60人が参加。公開授業や研究協議を通して、小・中学校間の授業方法の共有に関する重要性への理解を深めた。



本時の目標を確認する西田教諭

朝陽小では6年生「Unit 6 Save the animals」、(西田正俊教諭、桜が丘中では1年生「Unit 7 An Online Tour of the U.K.」を

(松永美和教諭の授業を公開した。うち朝陽小では、本時の目標を「自分の救いたい生き物について表現を確かめたり、情報を整理したりして、友達と話そう」と設定。CAN-DORISTの「話すこと」(発表)に当たる目標「学習した簡単な単語や基本的な表現を用いて紹介したり、発表したりすることが出来る」の達成に向けて、自分で選んだ動物を取り巻く問題を英語で表現する活動を展開した。はじめに、トラやキリン、ゴリラなどの動物の生息地や危険度、環境を守るためにできることを説明した英文を提示し、英文と日本語訳が記載されたカードを配布。児童たちは教室内を歩き回り、自分の持っているカードの英文をペアで読み合ったりカードを交換する作業を繰り返した。作業後、児童たちは好きな動物を取り巻く問題を説明する英文を作成。ペアで英文を読み合ったり、互いにアドバイスを送った。「この説明を入れても良いと思う」「動物の生息地を守るためにできることも入れたらどうだろう」など、発表内容をより良いものにするために話し合った。研究協議では、西田教諭、松永教諭が授業について説明。これまでに実施した乗入れ授業によって、スムーズな小中連携が実現していることを強調した。

このあと、この本時における小・中学校の連続性の各中学校区の外国語における今後の連携の方向性を柱に、12グループに分かれて話し合った。「小学校と中学校で同様のマグネットを教材として使っていて、連携ができていないと感じた」「義務教育学校化を控える中、乗入れ授業を行う時間を確保できずに困っているなど」の意見が寄せられた。

授業について、清明小学校の田中君枝校長が助言。小・中学校共にCAN-DORISTを用いて年間の授業の見直しを持って授業を行っていることを評価した。「本時の目標」「単元の目標」などを表すマグネットを小・中学校で統一していることに触れつつ、提示するタイミングに差異があることを指摘し「はじめから全て見えた方が子どもたちも授業の見直しを立てやすい」とアドバイスした。また「英語力のより一層の向上のためにCAN-DORISTの流れの把握を怠らず、各学校で何をすれば良いのかをあらためて考えてほしい」と求めた。学習指導要領の構造の理解による目標の明確化、主体的な学習に取り組む態度に関する評価方法の見直しなどを訴え「限られた授業時間でより思考力を高めるために、話すこと書くことに重点を置いてほしい」と呼びかけた。

【北海道通信 令和7年11月11日】

9年間の学び連続性へ国語研修講座 学びの文脈を意識して 釧路市教委 授業公開など

【釧路発】釧路市教委は10

月6日、美原小学校と美原中学校で釧路教育研究センター研修講座「9年間の学びの連続性に向けた国語科教育の充実」を開催した。市内の小・中学校教員71人が参加。授業公開や研究協議、大妻女子大学の樺山敏郎教授の講演などを通して、小・中学校間の学びの連携や国語科の授業における連続性の向上を考えた。

冒頭、共栄中学校の早川将光教諭が「国語科の授業において、説明的文章の読み取りに自信のない子どもたちが増えていることが小・中学校共通の課題」と伝え「中心となる指導事項の正当性を意識すること」「協働的な活動の場を設定すること」「学びを生かすための振り返りを行うこと」の3点を意識するよう呼びかけた。

続いて、美原小6年生国語科「ぼくの世界、君の世界」（坂本優一教諭）、美原中2年生国語科「紙の建築」（奥山愉美子教諭）の授業を公開。

うち美原小では「複数の視点に着目しながら、筆者の論の進め方の特徴や意図を考え表現することができ」る」を本時の目標に設定した。

はじめに、単元の目標「書き手の考えの違いに注目し、要点をまとめ、自分の考えを他者に伝える」を確認。学んだ内容を踏まえて、本時の課題を「筆者は、なぜこのような構成にしたのだろうか」と提示し「ぼくの世界、君の世界」と異なる

文章の二つの文章における違いに関して個人思考の時間を設けたあと、グループに分かれて話し合った。その後、あらためて本時の課題を確認。坂本教諭は、文章構成の意図について「読み手に筆者の意見が伝わりやすいように、小さな問いを積み重ねている」とまとめた。

研究協議では、協議の柱を一本時の手だてが、各種調査から見えた児童生徒の課題に沿った内容だったか、「協働的な学びが、児童生徒の考えを広げたり深めたりし、論理的思考を育むために有効であったか」「児童生徒が言語活動に対してどう学んだかを具体的に考えられる振り返りを行っていたか」と示した上で、参加者同士で公開授業



樺山教授が主体的な学びについて説いた

の内容を議論。「前時の振り返りの時間をもう少し短縮してはどうか」「子どもたちが積極的に学習に取り組んでいて、普段の学級経営がよくできていることがうかがえた」などの意見が寄せられた。

講演会では、樺山教授が「学習者主体へと導く国語科授業づくりの方向」学びの文脈に意を用いる」をテーマに、教員の在り方や深い学びの引き出し方などについて説明した。

はじめに、教員の役割を「子どもたちに学びを提供して長所を引き出し、発表を促し、学びのステージまで送り届け、学ぶ姿勢をつくるための手助けをする」と語った。

続いて「自主性」と「主体性」の違いを解説。「自主性は他者からの干渉や保護を受けず独立して行動すること。樺山教授が主体的な学びについて説いた

で、主体性は指示を受ける前に自分の意志や判断で行動すること」と定義し「授業に限らず、学習発表会などの学校行事に関しても参加する意味や学ぶ意義を考え、主体的に学べる子どもを育成してほしい。小・中学校の9年間を通して主体的に学ぶことができる子どもを育成し、見通しを持った授業づくりを行ってほしい」と述べた。

また、授業公開の内容に対して助言した。坂本教諭の授業については「筆者が文章全体を通してどのような説明の工夫をしているのか、奥山教諭の授業については「筆者が事例の挙げ方をどのように工夫しているのか」に注意して授業を進めるようアドバイスし、ラーニング・マウンテン（学びの文脈に基づく授業づくり）を説明。学びの文脈を子どもと共に創ることを心がけてほしい。目的や学ぶ過程を見える化し、目標達成のための段階を少しずつ乗り越えていくことが大切」と訴えた。

【北海道通信 令和7年11月13日】

釧路市大楽毛中校区で公開研

小中連携の実践発信

6年体育 ボール運動でTT指導

【釧路発】大楽毛中学校区（釧路市立大楽毛中学校・大楽毛小学校）で10月30日、小中連携を柱にした公開研究会が大楽毛中を会場に開催された。同中学校区は8年4月に義務教育学校大楽毛学園として開校する。市内の小・中・義務教育学校から約100人が参加し、小中連携の効果や主体的に学びを進める力を高める授業づくりなどについて研鑽を深めた。



大楽毛中（安部新路校長）と大楽毛小（富田直子校長）では研究主題を「自ら学びを広げることができ、子供の育成」と設定し、6、7年度市教委の研究指定を受け研究を進めてきた。研究指定最終年度になった本年度は、釧路教育研究センターの研修講座を兼ねた授業公開。小・中ジョイントプロジェクトを通して連携する公開研究会を実施することで、実践事例の交流や教職員の授業力向上を

目的としている。はじめに、大楽毛小の水上期教諭が大楽毛学園開校に向けた様々なこれまでの取組について説明した。開校に係る小中ジョイントの取組や日常的な小中連携などについて実践事例を交えながら紹介。八つの業務部会に分かれ、大楽毛学園教育計画の作成などに取組んだ内容等を報告した。中学校教員の小学校への乗り入れ授業や小学校教員の中学校での授業観察と生徒との交流、休み時間には中学校教員が小学生と触れ合うなど、小中教員と児童生徒との垣根を乗り越える取組に力を入れてきた実践例を紹介。また、中学校音楽教諭による小学生への吹奏楽部体験指導や道内外の義務教育学校への視察研修

1人ずつ、2人1組（T1とT2）の授業であること、確認した上で3授業共通の研究協議の柱「本単元・本時におけるT2のありかた」を提示。小中連携での授業展開について様々な角度から意見を求めた。

小中教員授業公開

うち小学6年の体育科では「ボール運動・ゴール型フラッグフットボール」を公開。大楽毛小の6年1組（児童数30人）の児童を大楽毛中で体育科を担当する佐藤美結教諭が写真1がT1として、担任の大楽毛小の工藤夏希教諭がT2として指導した。8時間扱いの7時間目。本時の目標を前時の試合の反省を活かし、自分のチームの特徴に合った作戦を立てることができると設定した。今までの活動を振り返り、本時の課題「チームの特徴に合った作戦を立て実践する」を児童と確認。前時の反省をもとに攻め方や

守り方についてチームで話し合った。ゲームと話し合い（反省）を繰り返すことで、体を動かすことの楽しさや気持ち良さ、仲間と協力しながら成し遂げることが得る達成感を味わった。T1の佐藤教諭（中学校）が体育科の専門的立場から技術面やチームワークなどを中心に、T2の工藤教諭（小学校）は担任として児童の内面や人間関係を重視したアドバースを送った。児童からは「きょうは今まで一番楽しかった。チームで決めた作戦ができた」「つぎはもっと得点を取りたい」といった声が聞かれた。

公開授業後の開会式では会場校の安部校長があいさつ。来春の開校に向け、小中連携などの授業改善を中心に研修を進めてきた成果について意見を求めた。来賓として釧路市教委の岡部義孝教育長が祝辞を述べ、研究の成果に期待を寄せた。

このあと、授業公開の3部会に分かれ、共通の柱「本単元・本時におけるT2のありかた」とそれぞれ分科会別の研究協議の柱を中心、熱心に協議を深めた。助言に立った釧路教育局の安田秀憲学校教育指導班主査は、3授業の成果を踏まえた上で「大楽毛学園にむけて」と題し、義務教育学校開校に関する着目点や改善策などを示唆した。義務教育学校の充実に向けては、9年間の育成を目指す子どもを、学校と保護者・地域そして行政が共通理解に立ち、指導計画を作成することが大切であることを強調。質の高い「特色と魅力ある教育」を持続させるには、教育行政と学校運営の意識的・意図的な連携が必要であり、一貫教育を評価し「成果と課題」を常に確認しながら新しい取組にチャレンジしてこそ持続できるとした。接続期での理解の共有や小・中学校における「文化

の違い」「教科の壁」「専門性」などについて、目指す子ども像を逆算して考える発想や教育課程について全教職員が語ることができる環境整備、授業改善では互いの学習指導要領を開くことなどを提案。義務教育9年間で人を育てる最適な教育は、学校の規模にかかわらずメリットが大きい教育であると訴え、大楽毛学園での教育活動に期待を寄せた。

公開授業の授業者と単元名はつぎのとおり。

▼中学2年「数学科」「平行」と合同（T1山内圭二教諭・中学校、T2磯部香里教諭・小学校）

▼小学6年「体育科」「ボール運動・ゴール型フラッグフットボール」（T1佐藤美結教諭・中学校、T2工藤夏希教諭・小学校）

▼小学4年「社会科」「昔から今へと続くまちづくり」（T1秋田理玖教諭・小学校、T2中谷真弓教諭・中学校）

《 研究センター 新聞記事 》

【釧路新聞 令和7年12月20日】



算数・数学の指導の在り方などについて協議する教諭ら

算数、数学指導の在り方理解

釧路市教委 鳥取西小、中で研修講座

釧路市教育委員会は18日、市立鳥取西小学校、同中学校で研修講座「9

充実」を開き、釧路管内

の小中学校教諭約80人が授業参観と協議を行った。

同講座は、授業公開や研究協議を通して、算数・数学の指導の在り方などについて理解を深めるために毎年実施。今年度は9年間の学びの連続性に向け、初めて小・中学校同時に行った。

この日は、同小の工藤智也教諭が小学5年生の算数、同中の工藤拓郎教諭が中学2年生の数学を担当し授業を公開。終了後は、道教育大釧路校の早勢裕明教授と市教委の赤本純基指導主事が助言者となり、この日の授業を振り返ったほか、ディスカッションを行った。参加教諭からは「子供たちの言語化できる力が素晴らしかった」「授業についていけない子供への対応の仕方は」などの声が上がった。工藤拓郎教諭は「子供たちがすべて分かっている前提で授業を進めるのは危険。全員が理解できるよう、進めていく努力を今後も続けていきたい」と話していた。（森崎博史）

【北海道新聞 令和7年12月30日】

釧路 ニュースファイル

◆算数や数学の教え方を学ぶ 算数・数学の授業のあり方に理解を深める教諭向けの研修講座が、釧路市立鳥取西小と鳥取西中で開かれた。写真。釧路管内の教諭約80人が参加した。

釧路教育研究センターが毎年実施している研修講座で、18日に開催。昨年行われた釧路市の標準学力検査で正答率が低かった「平面図形」をテーマに見童生徒向けの公開授業をそれぞれ見学した後、グループに分かれて意見交換した。

授業方法について「先生が生徒に答えの根拠を尋ねて一緒に見つけ出す姿勢がよかった」との意見が出た一方、「小学校



で学んだところを中学校でも丁寧に教えるべきでは」との声もあった。（シャッジャド円桃）

【北海道新聞 令和8年2月15日】



教職員らを前に講演する長田氏
(小松巧撮影)

「キャリア教育」必要なのは

釧路 教職員ら参加し講演会

子どもたちが自立に向けて職業観などを育む「キャリア教育」をテーマに、文部科学省の担当者らを迎えた教育講演会が14日、コーチャンフォー釧路文化ホールで開かれた。

釧路市教委の主催。文部科学省教育課程課の長田徹、教科調査官が講師を務め、市内の教職員ら約150人が参加した。長田氏は、他国と比較した日本の小中学生の学力をスライドで紹介し「学力は高いが、将来の職につなかりを見出せず、学ぶ意

義を持てていない」と危機感を示した。若年層の自殺率が高いというデータも示し、「学業不振や将来への悩みが自殺の要因となっている」とした上で「今頑張っていることは無駄にならないと、子どもたちに伝えることが重要」と続けた。

(北浜ひかる)

【釧路新聞 令和8年2月19日】

学びの意義や将来を示す

ふるさとキャリア教育 釧路で講演会

釧路教育研究センターの教育講演会が14日、コーチャンフォー釧路文化ホールで開かれた。参加者は、全国の先進事例や

データを交え、子供たちが地域への誇りや愛着を育むとともに将来を切り拓く力を育む「ふるさとキャリア教育」への理解を深めた。

この日は教育関係者ら152人が参加。文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官の長田徹氏が講師を務め「ふるさとキャリア教育の推進



講演を展開する長田氏

「地域と未来を拓く人づくり」と題して講演を展開した。

長田氏は国際的な学力調査のデータを用い、日本の中学生は数学、理科で世界トップレベルの学力があり、小学生も同傾向と解説した。一方で「数学・理科を使うことが含まれる職業に就きたい」などのアンケートで肯定的な回答をした中学生の割合は国際平均を下回っていることを説明。

「日本の小中高生は基礎学力が高いものの、

その勉強が生活や職業につながらないと考えていることがデータから見えてくる」と力を込めた。その上で、学校での学びの意義や将来にどうつながるのかを大人が明確に示すキャリア教育の重要性を強調した。

また、長田氏は「地域にこんな仕事や役割があることを知り、私も将来釧路に貢献できたらいいなどの芽を育むため、子供たちが釧路に住んでいる小中学生のうちに地元で頑張っている大人と意識的に会わせてあげてほしい」と参加者に呼び掛け、それがふるさと教育となると説いた。

講演会では、参加者が213人でグループを編成し、児童生徒からの質問や相談にどう対応するのかをロールプレイする場面も見られた。

(嶋守善一)

【北海道通信 令和8年2月19日】

釧路市教委 教育講演会

大人が努力する姿を

キャリア教育で文科省・長田氏

【釧路発】釧路市教委は2月14日、市内のコーチャンフォー釧路文化ホールで教育講演会を開いた。文部科学省初等中等教育局教育課程課の長田徹教科調査官が「ふるさとキャリア教育の推進」地域と未来を拓く人づくり」をテーマに講演。大人たちの姿が見えるキャリア教育の環境づくりを訴えた。

講演会は、教育・文化振興と教職員の資質向上を目的に学校や保護者、地域住民と共に考える機会とする場として企画した。地域住民や市内の教職員ら152人が参加した。

はじめに、長田教科調査官は、大分県内の小学6年生が中学校入学への期待や不安をつづる「自分を知ろうカード」の実践事例を紹介。入学後の勉強に対する不安を抱える児童に対し、

担任が「中学校からの勉強は、小学校までの勉強の積み重ね」と励ましたエピソードを話し、小・中学校間で連携を図る必要性を説いた。

続いて、IEAのTIMSS（国際数学・理科教育動向調査）の結果から、日本の中学生の基礎学力が高い反面、数学を活用する仕事を希望する割合が低い傾向にあるデータを提示。「全ての教科において、なぜ学ぶのか、授業を通して身に付いた力が社会でどう役立つのかを把握しながら学ぶ必要がある」と学習の意義の明確化が資質・能力の育



子どもたちに学ぶ意義を伝える重要性を説いた

成に必要と訴えた。

さらに、少子高齢化やAIの普及に伴う産業構造の変化にも言及。平成23年に入学した小学生の65%が、大学卒業後に現在存在しない職業に就く予測を示唆した。先行き不透明さが子どもたちの自己肯定感の低下や自殺事例の増加の一因になっているとし、地域で活躍している大人たちの姿を見る機会になるふるさとキャリア教育の重要性を強調。「地域の大人たちが一生懸命努力する姿を通じて、今の努力は無駄ではない」と思える環境づくりを心がけてほしい」と期待を込めた。